言葉と人権

M・A

「言葉」とは、何でしょう。

辞書で調べてみると、「音声や文字によって思想・意思・感情などを伝達するもの。」とありました。

私たち人間は、言葉なしでは生きていくことはできません。一日のうちでも、何百語以上の言葉を使って、相手に自分の意思や感情を伝えて生活しています。だから、言葉を発するときは、特に何も考えず、自然に言葉を発していることが大半ではないでしょうか。

しかし、時と場合によっては、言う側と受け取る側と、それぞれの情況や心の持ち方が反応し合って、人を励まし合ったり、傷つけたりします。

一昨年の冬、祖父は脳こうそくを再発し、意識も戻らず、人工呼吸器をつけた状態になりました。それでも祖母は毎日病院に行って、祖父の手や足をなでて、「今日は指が動いた

よ。」と電話で話をしてくれていました。

それから一ヶ月程たって、祖母が看護師さんに言われておしめを買いに行こうとしたとき、「もうそんなにいりませんよ、二、三枚でけっこうです。」と言われたそうです。相手はもう祖父がそんなにもたないから少しで良いですよと親切をきかせていった何気ない言葉ですが、意識が戻ることを期待していた祖母にとっては、とてもショックな言葉だったそうです。しかし、後で考えてみると、「むだになるから」という善意の気持ちだったんだと分かったよと言っていました。

また、同じ言葉でも、使い方によっては、全く別のとらえ方をするものもあります。

「いつも部活がんばってるね。」と言われると、今日はもっと寝ていたいなあと思っても、「今日もがんばって練習しよう」という気になりますが、「いつも散らかして、片付けなさい。」と言われると、「いつもそうではない」と言い返したくなります。

このように考えれば、言葉は、とても何気なく使えるものではないという気がしてきますが、いちいち「これはどうか」と考えて話をするということもできるものではありません。だから私は、いつも相手の立場になって考えようと思っています。

言葉を発する前に、「今この言葉を言ったら、この人はどう感じるだろう。」と考えることで、自分の口から発する言葉も変わってくると思います。

また、受ける側も、「この人は今どんな気持ちでこの言葉を言ったのだろう」と考えれば、たった一言でけんかになったり、いじめにつながることはないと思います。

私は、言葉とは何かを考えることから、相手の立場に立って考えることで、一人一人の権利を大切にし、尊重していく心が育てられると考えます。

いやされたり、傷ついたりするのは、その言葉を自分がどう受け止めるかにかかってい

ます。だから、相手にいやなことを言われたら、嫌なことを言い返すのではなく、少しでも、良い方に考えられる人になれるようにしていきたいです。